

南山見公民館報

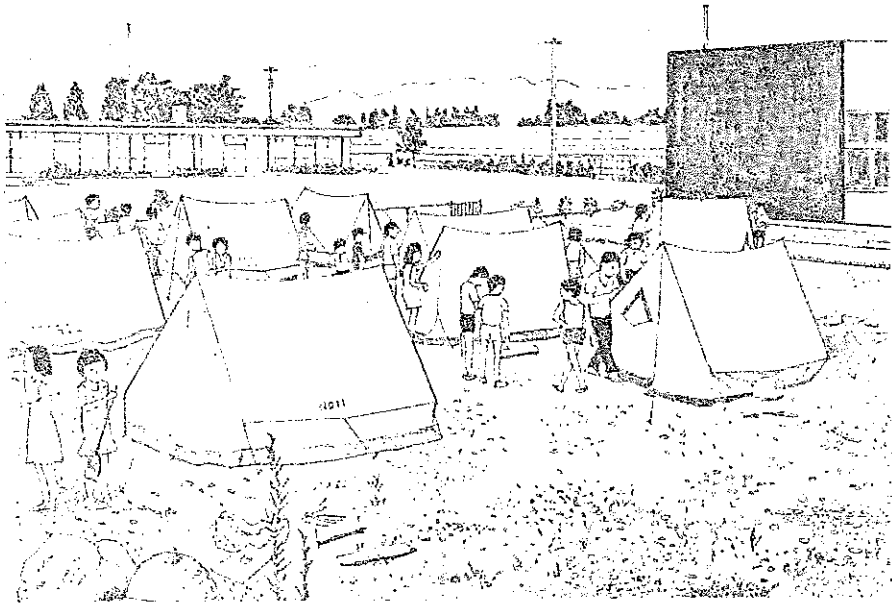
編集発行 南山見公民館

昭和54年9月20日発行

No. 6

富山県東砺波郡井波町
TEL (07638) 5176

ハ乙女



—— 待望のグラウンド照明 ——

“頑張る婦人像”

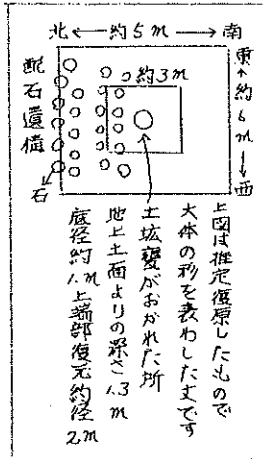
スイッチを入れる夜空に、パット灯りがついた。一基また一基計六基、思っていたより明るいグラウンド。照明設備ができて私達が初使用。学習はソフトボール。始めてテロイヤをはめる人が多い。打ちたくて仕方がない、ゴロがきた上から押さえて叱られたり、上ったボールを落して「ライトは目がくらんだ」などいって、るけど登壇なら何んと答えるやら……でも終りに先生にみなほめられた。二回目は親子の乗い、総勢五四名がダンスやゲームで楽しい一夜だった。昼は獨りに出ている者ばかり「中学校送行がずにソフトができる、良かったね、楽しかった」の意見、体力低下が叫ばれている昨今こんなよい設備の出来たことを部員の方々と共に喜んでいく次第です。照明設置にご尽力下さった方に深く感謝いたしております。

家庭婦人体力づくり教室・
婦人学級レクリエーション部会

田中 美智子

銭養山遺跡 高瀬浄泉

銭養山遺跡は、県の「遺跡台帳」及び「富山県遺跡地図」に古墳として登録されている。位置は清玄寺地内にあり、銭養山と俗称される小山の頂に立地する。標高一七七米、平野部の北高わずかに一〇余米である。東西五五米、南北三〇米の一見独立陵状を呈す。昭和五十年から当地区に県宮ほ場整備事業が実施されるに当り、県教育委員会・町教育委員会が二次にわたり調査の結果、果大休次の事が判明した。



一次調査で遺跡には四米×四米で石が六体方形に配列され、その内側に盗堀堀のあることが確認された。また盛土がみられない事から古墳ではないかと考えられたが遺物は全く発見されなかった。

二次調査では更に発堀区を拡張したところ、角石は地山を切り込んで配置されていた。

またその内側の盗堀堀を掘り下げた結果その下半に至ってこれは遺跡形成時の土掘そのものであることが判明した。又配石遺構が少なくとも二重に函繞している事も明らかになった。この遺跡は山の頂部といふ自然地形の高まりを利用し、地山整形と配石を行うことによって塚状の効果を果たせようとしたものといえよう。(注)配石に使用され

遺物が少ないのは埋納された遺物が本来少なかったと推定されることに加えて後に散回にわたる盗堀を食ったためと思われる。出土した中世陶器の破片は口縁部と本体があるが同一個体にぞくすると考えられる。器種は丸縁口縁をもつ大甕で口縁部で復原口径はおおよそ60cm前後と推定される。これらの珠洲系中世陶器片は学術上十四世紀後半ないし十五世紀代の所産と見なされる。これは遺跡の形成年代を決定し得る唯一の遺物であるので、これによって銭養山遺跡は室町時代に構築されたものと考えられる。

室町時代は緯如上入る連如上人の時代なり。大伴一九七九年三月、富山県教育委員会発行の「銭養山遺跡の調査」より。



単位老人クラブ 紹介「沖福寿会」

設立昭和三八年発足
 会長一名 副二名 委員六名
 当四三名 現三六名
 会員数三六名 高令者教室二八名 瑞泉大柱六名 趣味の会茶道六名、衆焼三名 手芸三名、当クラブはお年寄りの「和」をはがることを中心にして、老人は人生の総括する時期で、後世に何かを残したいという意欲があり、自己の業績を伝えることが生き甲斐につながるといふ理念のもとに、月毎に目標を立てて行事を行っている。

老人訓
 社会に何を望むというより如何に私共は社会に貢献でき得るかを考えることが必要である。
 短を捨てて長を取る
 二家では愛される老人になろう。
 一社会で敬愛される老人になろう。

一健康で働く老人になろう。
 一社会奉仕する老人になろう。
 一何時も明るかな老人になろう。

倉橋豊次記

児童の「タクマシイ姿」

を見る

昭和五四年度小学一年生と中学三年生までの児童クラブの員数は一七三名で児童クラブの活動は夏休みに集中する。四月と七月にかけ児童クラブの育成に關する種々の行事が催され、役員は総べて行事に参加している。夏休み初日のラジオ体操講習会を皮切りに活動展開。二七、三〇、三三の迄、野球、ソフトボール練習。二七、三一、隔日ソフトボール大会へ一回戦、東山見子チームと対戦一六対六で敗れる。二八一、才十回井波町児童クラブ野球大会へ一回戦、山野川下子チームと二〇対二二回戦、今町二区と対戦十対〇でコールド勝ち。

三回戦、昨年度優勝の高瀬チームと対戦、八対七で惜敗、三回決定戦、下新町チームと対戦、九対四で惜しくも四位となる。二七、二六、二七(一泊二日)平村相の倉でジユニアリーグ研修会、十名参加。二八、五、六(一泊研修)ドンチボール、キヤンパ六十名参加。二八一、七、写生会、俱利伽

盆踊り大会に花火
 打上げ華々える
 二年目を迎えた成年部は会員百二十名が「会員の親睦と団結により地域社会の発展に貢献する事が自らの幸福につながる」をスローガンに活動を続けております。四月以降花見、アングレト調査、町長と語る会、講演会、ソフトボール大会

各団体のレポート

羅不動寺で七〇名参加
 各行事を遂行するにあたりて児童クラブ員自らが参加するようになつて、児童クラブ育成会、母親クラブ役員は父兄の方々と協力し、明日の日本を背負う児童を明るく、健康で伸び伸びしたよい子に育つように各機関の行事を通じ努力して行きたい。

沢田武夫記

龜田信一記

やる気の
 壮年同好者

壮年部では農事講習会五回、盆栽講習会二回、郷土史、町政各々一回、計九回の行事を実施し、農事講習会では播種、苗の管理、田植、田干、施肥、病害虫、除草、水管理、着色水、幼穂、穂肥、刈取、乾燥、調製、出荷、事故防止等々時期に合わせ稲作管理全般。大豆栽培の要点等々々の講師よりパンフレットや図解で説明、受講生は稲づくり、米づくりにもメモを手にとり真剣でした。この反省会を十二月に予定しています。一方盆栽は受講生が多過ぎて回数も講師も予定を越す盛況ぶり、あなたも次回から参加下さい。お待ちしています。

前田安夫記



地区の入達と共に!!

「やる気の団活動」

私達南山見青年団は「やる気」でやろう団活動」を今年度のスローガンに、全団員一体となり活動を推進しています。行事の中には皆さんのご存知の政・は

青年団レポート

えの一言 防除活動 そして夏 涼盆踊り 大会、老 若男女を 問わず

のご指導ご協力いただきました。 ようお願いたします。

南山見青年団

前川敏彦 記



南山見地区は古く大化年 間、曾我入鹿の家来領築小 左衛門一族がこの附近の山 麓に家敷を構え、仏教の隆 昌とともに、この領築氏を 中心に

在所のゆらい

繁栄を 続けた のであ る。そ の後戦国時代に至り小杉氏 のため領築氏は亡ぼされ、 さらに佐々成政項に五つの 寺山焼き払われた。現在の 部落名の「志観寺」「清玄

寺」「運代寺」「東城寺」「因兼寺」などそれが徳ば れる。「志観寺」は明徳 (二三九〇年)以前の「止観寺」と称する天台宗の巨刹から 部落名とした。 「谷」は大寺山、 八乙女山の谷 の口にある。 「今里」は昔 江波氏の領地で最後に兩望 された。「戸板」は延喜 (九〇一年)板倉があり板で囲 んだ。で戸板と称したとの こと。「五領」は八乙女山

公民館行事あれこれ

公民館では毎年本力づく りを柱とした山登りを実施 しています。今年は趣向を 変えて神社仏閣を見学しな がら本力づくりをしようとい うことで 早朝の氷平 寺参り、荒 業の修業増に感嘆し、その 昔朝倉家の居城跡を見学し 往古を偲び武将の墓にぬが ずき、苔むした平泉寺の参 道を通りたえだえ緑濃き庭 園のすばらしさ、静けさに

胸うたれる思いがした。又 人づくり推進学習として松 村清年先生の中国雑感、恒 例の盆おどり大会、赤青灯 提の下で成年部の花火を合 図にあてや かなゆかた 望の踊子、 私達が口ずさむ民謡の数々 南山見ならではの情緒あふ れるこの盆踊りは忘れがた い行事の一つであると思ふ。

に某吾族が在任していて、 その御領地であったので御 領と称していたのを改めた。 「川原崎」「沖」は谷川の川守 の在任していた土地を、か 集沖(集申)とか川に関係が 深い。「西院瀬見」はこの 地区に壺泉があり埴如上人 より院泉見と命名され、瑞 泉寺より面にあゆみので西を 付け後泉が宜にがわり西院 宣見と称するようになった という。

倉嶋清時記

九、十、十一月の 公民館の主な行事予定 九地区運動会(公民館ランド) 少年研修館本力づくり 十町民本育祭 十一地区文化祭(公民館)

編集後記

編集委員努力するわ力なか なか及ばず、読みづらい編 集かもしれませぬ。ご意見 をお寄せ下さい。また、今 回記事をいただきました方 々に末筆で恐れいりますが 厚くお礼申し上げます。

玄瀬幸子記